



日本 NIE 学会 研究セミナー (オンライン開催)

2021.11.6 (土) 14:00-16:00

美術教育における新聞活用の効果と可能性～「見る」「読む」から「表現」へ～

講師：菊永真美さん (大阪府立登美丘高校 美術科教諭、日本 N I E 学会会員)

講師である菊永さんは高等学校の美術科教育で 20 年以上にわたり NIE 実践者としてユニークな取り組みを続けています。「社会の動きと美術とは関係性が極めて強く、新聞から感じとり、考えたことを表現につなげることに意味がある」として「時代を切り取るスクラッチボード」等新聞を活用したさまざまな授業を重ねてきています。ここで紹介される N I E 実践は各教科領域、校種を越えて先進的なものではありませんが、たくさんのヒントが得られるのではないのでしょうか。コロナ禍にあっても、「今」と向き合い「表現」された事例は、「なぜ新聞を活用するのか」という NIE の意義についても多くのことを問いかけます。「身近な生活の中から自ら感じ取ったことや考えたことを追求し深めていくことの大切さ」を豊かな実践から学び、新聞活用のこれからについて考えてみたいと思います。

この他の研究セミナー (次ページ参照)

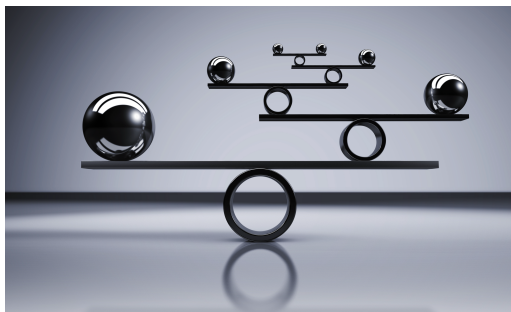
- ① 11月21日(日) 13:30~15:30 N I E の「学び」を考える～大正新教育の「自学」論をもとに～ 講師：富士原紀絵さん (お茶の水女子大学、日本 N I E 学会会員)
- ② 11月28日(日) 13:30~16:00 「新聞博物館」の N I E ～ I C T 時代における博物館活用の可能性～ 講師：今村浩さん (熊本日日新聞社 編集局読者・新聞学習センター N I E 専門委員、日本 N I E 学会会員)、尾高泉さん (ニュースパーク (日本新聞博物館) 館長、日本新聞協会博物館事業部長、日本 N I E 学会会員)
- ③ 12月4日(土) 13:00~14:30 日本 N I E 学会京都大会記念講演会 (研究委員会・開催校企画) コロナ下の今、改めて新聞 (ジャーナリズム) の役割を問い直す 講師：根津朝彦さん (立命館大学)

日本 NIE 学会研究委員会

お問い合わせはこちらまで：

syto1970@ss.ritsumei.ac.jp

(立命館大学：柳澤伸司)



11.21 (日) 13:30-15:30

N I Eの「学び」を考える～大正新教育の「自学」論をもとに～

講師：富士原紀絵さん（お茶の水女子大学、日本N I E学会会員）

大正新教育の教育方法の変革の主張のメインは「自学」の導入でした。学校教育の中心が教師の教授・指導から、子どもの学習・学びへの転換によって「自学」が結果的に教師の負担を減らすこととなります。N I Eの最終形態は学習者自身が自ら新聞学習をすることにあり、カリキュラム・オーバーロードとして学習負担が問題視されている現代からみても、大正新教育における子どもの学習指導の質の転換の発想から学ぶことがあります。大正期の試みをもとに学習者自身が主体的に新聞学習に取り組んでいく展望を考えたいと思います。

11.28 (日) 13:30-16:00

「新聞博物館」のN I E～I C T時代における博物館
活用の可能性～



講師：今村浩さん（熊本日日新聞社 編集局読者・新聞学習センターN I E専門委員、日本N I E学会会員）、尾高泉さん（ニュースパーク（日本新聞博物館）館長、日本新聞協会博物館事業部長、日本N I E学会会員）

熊本日日新聞社の新聞博物館は、全国初の新聞博物館として1987年にオープンしました。当初からNIEの情報発信拠点を目指してきましたが、来館者の減少や高齢化、コロナ禍、限られたスタッフや予算による運営など克服すべき課題は少なくありません。こうした中、教育現場や家庭で進むICTにどのように対応していくのか。具体的には、山間部の学校や、新型コロナで一斉休校となり在宅生活を余儀なくされた小中学生を対象に、新聞博物館をオンラインで結んだ特別授業、百年前のスペイン風邪以降、現在に至るまでの感染症報道や昨年の熊本豪雨をテーマにした企画展の展示物を、ウェブサイト上でデジタル保存・公開する試みを始めました。熊本県博物館ネットワークと連携することで、博物館の常設展の模様をグーグルマップのストリートビューで紹介する取り組みについてもお話しします。

ニュースパーク（日本新聞博物館）は「情報と新聞」の博物館として、歴史と現代の両面から、たしかかな情報を見極める力の大切さと新聞・ジャーナリズムの役割を伝えています。社会教育施設として、当館がどのように地域や教育界との連携を強化しているか、学校図書館との連携、デジタル時代の情報リテラシー教育の取り組みを含めてお話しします。

日本N I E 学会京都大会 講演会 **12.4** (土) 13:00-14:30

コロナ下の今、改めて新聞（ジャーナリズム）の役割を問い直す

講師：根津朝彦さん（立命館大学、非会員）

コロナ禍の中で、政府や地方自治体などが発信する情報等に対して、私たちはこれまで以上に敏感に反応するようになっていきます。社会の現状を把握していくために正確な情報を欠かすことはできませんが、日常の行動が制限される中で、欲しい情報を瞬時に得ることができるインターネットツールは私たちにとってこれまで以上に大きな情報源として機能してきています。そうしたデジタル化の進展に伴って、ニュースは「無料だ」という認識が広まる中、「有料の」「紙の」新聞にどのような価値を見出すことができるのでしょうか。また、新聞報道を担う人たちはどのような社会的責務や役割を果たしていくべきなのでしょう。

本会においては、ジャーナリズム史研究に従事し、報道機関が今日果たすべき社会的責任や役割についての提言（例：朝日新聞 2021.3.12「メディア私評」）を行っていた根津朝彦氏を招聘し、新聞（ジャーナリズム）の役割を問い直すことで、翌日（12月5日）の大会シンポジウムの議論につなぎたいと考えています。



日本 NIE 学会研究委員会

お問い合わせはこちらまで: [sy01970@ss.ritsumei.ac.jp](mailto:syt01970@ss.ritsumei.ac.jp)

(立命館大学: 柳澤伸司)